

あなたはどちらの国に生きるのか？ 「罪とは？」

マルコ 15:1~15

イエスキリストが十字架に向かわれたのは神様の計画でした。悲惨な出来事が赦され、受け継がれたのは、Goodnews (福音) として、復活と赦しを私たちが信じ、祝福されるためです。罪の代償は重く、苦しく悲しい出来事です。それを私たちに福音として与えた神様は私たちの罪を裁くのではなく、復活の恵みがあるので、罪を認め、神様を信じて委ねることを望んでおられます。イエス様の十字架の裁きの緊迫したシーンを見て、どう感じましたか？皆さんは緊張した時どうなりますか？心が騒ぐ、ドキドキする、そのために失敗したことはないでしょうか？十字架の裁きのシーンで照らされた人間模様を見て、自分の心を見ていきましょう。イースターは自分の罪を認めることができた人が、赦されていることを祝うことのできる日です。

■ ピラトの判断

『ピラトは、祭司長たちが、ねたみからイエスを引き渡したことに、気づいていたからである。しかし、祭司長たちは群衆を扇動して、むしろバラバを釈放してもらいたいと言わせた。そこで、ピラトはもう一度答えて、「ではいったい、あなたがたがユダヤ人の王と呼んでいるあの人を、私にどうせよというのか。」と言った。すると彼らはまたも「十字架につける。」と叫んだ。だが、ピラトは彼らに、「あの人がどんな悪いことをしたというのか。」と言った。しかし、彼らはますます激しく「十字架につける。」と叫んだ。それで、ピラトは群衆のきげんをとろうと思い、バラバを釈放した。そして、イエスをむち打って後、十字架につけるようにと引き渡した。(マルコ 15:10~15)

■ 登場人物の罪

《ピラト》 保身・恐れ・緊張
《祭司長》 虚栄と自己義・高慢 (=自分が神になる)
《律法学者》 嫉妬
《群衆》 考えないこと・周りに流される・保身。
疑問があっても周りに合わせてしまうこと。保身のために大事なものを捨ててしまう。
《バラバ》 罪に基づく行動
ピラトはイエス様に罪がないことは分かっています。しかし、ローマ帝国からピラトが命じられていたのは武力によるのではないユダヤ人の制圧です。どう判断すべきか、すさまじい緊張があったのです。彼は正しいことを知っていたながら、自分の身を守るために群衆の声に賛同してしまっただけでした。

■ 群衆、祭司長と金持ちの男 (マルコ 10:17-3)

イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいのでしょうか。イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかに、だれもありません。」(マルコ 10:17・18)
この青年は、マルコでは「金持ちの男」となっていますが、マタイでは「金持ちの青年」ルカでは「金持ちの議員」と書かれています。ですからこの人は、相当なお金持ちであると同時に、若い青年であるのに議員でもあり、社会的にも、信仰的にも自他ともに認める立派な人物だったのです。社会からも尊敬されていた人でしたが、イエスのもとに走り寄ってきてひざまずいてイエスに尋ねました。律法を学んではいたが、イエス様に教を乞う、つまり、この青年は自分の学んできた律法に疑問を感じていたのです。しかし、彼は自分の財産を手放すことができず、イエス様について行くことはできなかったのです。

■ バラバと金持ちの男

旧約の時代、「お金を持っている」ことは「祝福」の証でした。金持ちは救われると伝えられていたので、金持ちの男も自信があり、傲慢な気持ちがありました。「戒めはあなたもよく知っているはずですが、『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。』

欺き取ってはならない。父と母を敬え。』すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」(マルコ 10:17~24)

律法を守り、罪をおかしていないという青年に、イエス様は罪を教えられました。

バラバは自分が罪人であることを理解していましたが、バラバのようにはっきり見える悪事を行っていない私たちの心はどうでしょうか。

イエス様は青年が金を神としていることを指摘し、他に神があってはならないことを伝えました。飢え乾いてイエス様のところに行き、「尊い方」と言ったが、彼の心の中に神様はいなかったことを伝えたのです。

■ 私たちの罪

罪とは何でしょうか。私たちは自分自身の罪を理解できていますでしょうか。一番の罪は「罪がわからない」こと。「罪」を「罪」だと認めることができないことです。

殺してはならない律法を重んじていたパリサイ人が、「殺せ」と言ってしまったように。

金持ちの青年が自分を信じ、心の中に神様がいなかったように。ライハルト・ブーハーは、「人の人生 95%は自分でコントロールできない。」という言葉を残しました。階級制度の下の身分に生まれた人がどれだけ努力しても、どうにもならないことがある現実。95%は神様がそなえられたものです。成功者は神様がそなえてくださったことを忘れ、自分の努力によって今があると信じています。だから、青年やパリサイ人は自分の立場を守ることを考え、イエス様に従うことを選ぶことが出来ませんでした。

保身、恐れ、緊張、虚栄や自己義や嫉妬、考えないこと、これらの罪は私たちにもあります。

■ ある旅人

イエスキリストの像を見たくて旅に出たある人がいました。多くの人がこの像を見て、自分を悔い改め、涙を流したことを知り、その像を見るためそこに行きました。すぐる思いで、180度見て回りました。しかし、何もわかりませんでした。

諦めて帰ろうとした時、ある子どもに「どうして跪いてみないのか？」と言われました。言われた通り見てみると、大事なことが見えたそうです。

人は愚かです。私たちはいつも自分の見方で見ようとする弱さがあります。

まとめ

本当に「罪」が分かっているのでしょうか？神様は完全なお方です。しかし私たちが「罪」を理解していない事に欠けがあるので。人を欺いたり、憎しんだり、嘘をついたり、あの人よりはましという比較などなど…。「罪」と言われるものは、もちろん悪いです。しかし、その罪が自分にあることが認められない・わからない方が罪だという事を受け取りましょう。イエス様の十字架は重たい話であるが福音は「Good News」だと言われています。あなたを裁き、罪人に定めるものではありません。私たちは十字架を重たく受け止めることは必要ですが、復活があり赦しがあることを知しましょう。それは同時に自分の罪を受け取る・認めることなのです。全てを認めることが出来ていない(言い訳をしている)本当の罪を認め、本当の悔い改めを祈りましょう。

聖書は環境や組織を変えるのではなく、一人の人が変われば奇跡が起こることを教えています。罪を認めて、神様にはできると信じて、助けてくださいと祈りましょう。どんなことでも信じれば奇跡は起こるのです。

「私の罪は赦された」「主の名をほめたたえます」と立ち上がり賛美しましょう！

(要約者:藤原 友規子)

(2023年4月16日)